

NPO 法人

第61号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578

TEL 055-288-2345 FAX 055-288-2531 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

登山教室報告

ドノコヤ峠 ～ 芦安鉱山

芦安ファンクラブ 清水 准一

5月22日、登山教室当日は絶好の晴天、まさに新緑登山日和になった。参加者とAFC会員総勢15人はまだ仕上がったばかりのコースを順調に登って行く。途中には鹿の食痕とみられるハシリドコロやその後の整腸に食べたかは不明だがキハダの皮も食されていた。河原歩きや大きなガレ場を高巻したりしたためにドノコヤ峠には予定より少し遅れた。

案の定、峠の面影はなく、奈良田側に大木を倒し大きく崩れたやせ尾根になっていた。

しかし、狭い窓からの展望は参加者を満足させてくれた。ここからジグザグの下りをドノコヤ沢に下り、鉱山跡地まで河原歩きとなる。その周囲は新緑の木々と下草が茂り、いにしへの面影を残していたのは居住区の造成した石積みと、深くなった谷の脇に残っていた用度販売所の建物跡がその場所を示していた。

ここで早川隊の鞍打、富山両氏と合流し、いわば歴史的な史跡価値の共有に時間を使ったかった、が、我々が遅かった為に彼らはゆっくり周囲を見学し、すでに満足げであった。帰りを急ぎたい我々はAFC歴史文化部の渡辺氏の講義もそこそこに、火薬庫や坑道跡そしてズリ場くらいしか見ることが出来ず、忙しくも少し未練の思いを抱きながら帰路を歩み始めた。道沿いにはフジヤキリ、トウゴクミツバツツジの花が鮮やかな濃淡の紫に咲き一行を楽しませてくれた。また、少し体調を崩した人もあったがAFCのサポーターや早川隊のレスキューに助けられて予定より1時間遅れで桃の木温泉に着いた。ここでゆっくり疲れを癒してもらい、無事に修了証書を手渡すことが出来た。整備したコースも多くの人に活用していただければAFCの汗も報われることになる。



ドノコヤ峠にて



鉄柵場跡

～～ 参加者の皆さまからの感想 ～～

中村 ますみ さん (八王子市)

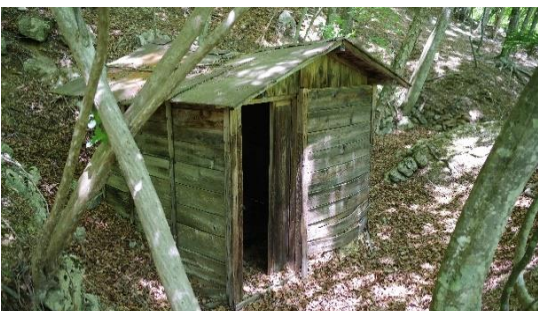
天候にも恵まれ、美しい新緑の素晴らしい景色の中を歩くことができた登山でした。途中にはフジやキリ、ツツジなどの花が新緑の中で映え、河原では自然のオブジェとも言える大きな枯れ木があったり、魅力的な風景の場面が数多く、目を楽しませてくれました。また、野鳥の鳥のさえずりは、苦しい山歩きの中で一服の清涼剤のようでした。

募集対象が『初・中級者向き』ということなので、初心者にも毛が生えた程度の経験しかない私でも参加できるかな、と軽い気持ちで参加したのですが、日帰りの山行としては、かなりの強行軍に感じました。当日は5月にも関わらず、平地で30度を超す真夏日。そんな天候だったこともあってか、急斜面の登りは身体に堪えました。復路の途中、私は左足のつけ根が痛くなり、歩行困難な状態になってしまい、皆さまには、大変なご迷惑をおかけしました。リーダーの清水さんを始め、サポートしてくださったガイドの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。無事に帰れてよかった、よかった…と優しくお声を掛けて下さった方にもお礼を言いたいです。

下山後は桃ノ木温泉のいいお湯で疲れを癒やすことができ、帰途についた時は何ともいえない気分でした。最後には修了証までいただき、本当にどうもありがとうございました。

また、終了後、すぐにアップされた芦安ファンクラブのサイトの今回の登山教室のレポートを拝見したところ、直前に、約一週間かかって登山道を整備されたとありました。登山道というのも定期的に整備が必要で、その為の人手が要ること、そして安全な山登りも、そういった陰の力があってこそ成り立つものだということがよく分かりました。

自分の体力のなさをつくづく認識させられた登山でしたが、もう少し体力をつけて、皆さんと共に同じ山を目指して歩きたいと思っています。その時は、また、どうぞよろしく願い致します。



火薬庫

中村 正吾 さん (八王子市)

今回、芦安ファンクラブの登山教室に初めて申し込みました。南アルプスはあまり知りませんでしたが、出掛けてみると、本コースは初・中級者向きとはいえず樹林帯の急な勾配の登り降りかもしくは崩れやすいガレ場上部のトラバースか、足場の悪い沢沿いの歩きが殆どで、気の抜けないハードなコースでした。そのため、予定より時間が掛かり、鉱山跡地での見学と昼休みの時間が少なかったのはやや心残りでした。可能ならば、奈良田に降りるプランだったなら、もう少し余裕があったのではないのでしょうか。それでも、朝から夕方まで一日を通して快晴という当日のお天気の良さは幸運でした。日が長い時期であったことも、このコースには好条件だったと思います。峠付近から眺めることが出来た、雪を頂いた悪沢岳や白根三山等の山々も忘れられません。

帰宅してから地図等で確認しましたが、アップダウンの合計は1,800m前後だったようで、改めて往時の人々の苦勞が思われました。今から30年ほど前、短期間ながら岐阜県の山間部の鉱山集落に暮らしたことがありましたが、その時のこともいろいろ思い出しました。その集落にも、それぞれに小さいながらも小学校があり、スーパーがあり、喫茶店(鉱山らしく「マイン」という名でした)があり、お祭りも行なわれて神輿が出ました。しかし、今は誰ひとり住む人はなく植物が生い茂って自然に還っていくようです。

結局、最初から最後まで、誰ひとりとして他の登山者に合わなかったということに、人の世のうつろいを考えたり、南アルプスの懐の深さを考えたり、いろいろな想いが重なりました。それも、無事に行って帰ってこられるよう事前のコース整備から当日のサポートまでして下さった、リーダーの清水さんを初めとする芦安ファンクラブの皆様の御陰と心から感謝しております。貴重な山歩きを体験をさせて頂き、どうも有難うございました。



ドノコヤ沢歩き

塚原 泉 さん (甲府市)

以前芦安小学校の児童が、学習の一環として芦安鉦山跡を訪れたというニュースを見て私も何時かは行きたいと思っていた芦安鉦山跡までドノコヤ峠を越え行くことが出来ました。芦安ファンクラブのみなさんガイドのみなさんの援助がなければとても達成できなかった峠越えでした。

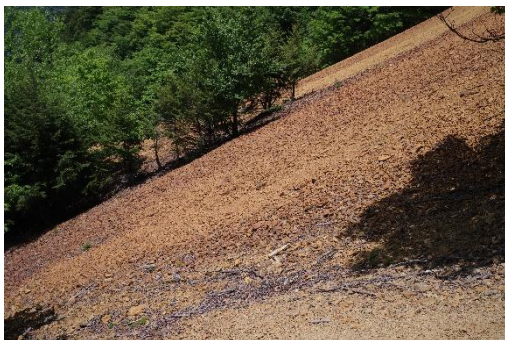
桃の木温泉より更に奥に送迎のマイクロバスで進みました。何台か車が停まっている広場があり、そこがどうも車で行ける最終地点のようでした。全員で準備体操をした後、歩き始めました。いよいよ出発です。心が躍ります。

沢の流れを右に渡ったり左に渡ったり河原歩きが続きました。歩き始めて30分程で河原から離れ、山道を登り始めました。この登り口も知っている人でなければわからないかもしれません。ひと登りしたところに、ドノコヤ峠方向を示す鉄板製の道標がありました。この道標は今回の隊長さんが10年ほど前に設置したのだそうです。この後、随所に同じような鉄板製の道標が設置されていました。ありがたいことです。

今回の企画に向けてファンクラブやガイドの方々、山道を修理したり新しく造ってくれたりしていただいているようで、それほど難儀をせず登ることができました。やがて大きく崩れたガレ場を大きく上の方へ迂回して登ることになりました。程なく向こう側の南アルプスの山々が見える大尾根に達しました。尾根へ出てしばらく下ったところがドノコヤ峠でした。

峠で大休憩、南アルプスの展望を楽しみました。奈良田側は大きく崩れていました。以前はこの峠から峠道が直接下ったのですが、崩れていてとても下りれるような状況ではありません。峠から先の高みに少し登り、そこから下りの山道が始まりました。

しばらくは昔の峠道という感じで快適にジグザグに下っていくと沢に降り立ちました。これがドノコヤ沢でしょうか。強くなった日射しで石や砂の照り返しがあったりで暑い中を、沢の流れを左右に渡ったりしながらかなり下っていったところに鉦山跡を示す大きな岩がありました。ドノコヤ峠を越えて、ようやく芦安鉦山跡に着いたのです。



ズリ場

沢から登ったすぐのところの石垣で作られた平地でお昼を食べながら、芦安鉦山跡についての話を聞きました。その後、鉦山跡を案内していただきました。苔むした石垣で作られた平地を過ぎると、有刺鉄線に囲まれた火薬庫の建物がまだ残っていました。鉦石を選別していらなくなった瓦礫を捨てた場所（ズリ場というらしいです）や、圧巻の坑道口も見ることが出来ました。残念ながら、私が一番見たかった芦安小学校の分校跡は、出発の時間の関係もあり見ることは出来ませんでした。そうでなくても私はもう歩き廻る力の限界だったかもしれません。

帰りはまたドノコヤ沢を登るのですが疲れがたまったのか、足がつり始め自由に歩けません。ファンクラブの方がつりによく効く薬を飲ませてくれたり、リュックを背負ってくれたり、本当に助かりました。

峠からは下りで大分楽になりましたが、しかし落ちれば大けがをするだろうと思われるようなガレ場のトラバースが何箇所もあり、気が抜けない下りが続きました。隊長さんやファンクラブの方のアドバイスでガレ場を無事通り過ぎ、やがて御勅使川の河原へ下りきりホッとしました。少し楽になった気持ちで、沢の流れを右へ左へと渡り、ようやく車のところまで辿り着いたのでした。

最初にも書きましたが、芦安鉦山跡に辿り着くのは、正に聞くに勝る難路で遠かったです。ファンクラブのみなさんの援助がなければ行ける場所ではなかったように思います。前々から行きたい行きたいと思っていたドノコヤ峠を越え、芦安鉦山跡までなんとか行くことが出来てとてもうれしかったです。おまけに芦安ファンクラブからとても綺麗な修了証書までいただけてしまいました。恐縮です。

今回の山行を企画してくれた芦安山岳館、芦安ファンクラブ、そして引率同行してくれた隊長さん副隊長さんを始めファンクラブのみなさんに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



坑道の前で

桧尾峠・カンバ平登山道整備

芦安ファンクラブ 堀内 訓

5月28日(土)と29日(日)に針葉樹会(一橋大学山岳部 OB 会)と富士通アイネット山梨支店の皆さんと芦安ファンクラブは登山道の整備をしました。登山道整備は今年で5年目になります。前回の作業で東口登山口から桧尾峠までは修復したのですが、今回は南アルプスの主峰である白峰三山が展望できるカンバ平まで延長することになりました。ほとんどの登山者は、一般的な登山道である夜叉神の森登山口から夜叉神峠・鳳凰山へと向かうルートを利用していることでしょう。しかし、桧尾峠を中心として、カンバ平・大骨山・高谷山・夜叉神峠へと比較的低山のトレッキングを楽しむルートがあることを知っている人は多くはないと思います。読者の皆さん、今まではマイナーであったこのルートをぜひ歩いてみてください。そして、多くの方にこの素晴らしいルートを紹介していただきたいと思っています。

午前9時、晴天の芦安山岳館に山男が集まりました。夜叉神東口登山口まで車で移動し、補修用資材の角材や鉄杭を背負子に積んで荷揚げ開始です。

目指す桧尾峠まで運搬距離は約5^{キロ}。角材1本で約1.8kgもあります。参加者は20^名近くも背負子に積みこみ、「縦走する荷物より軽い」と平然と歩み始めました。当日荷揚げした補修資材はというと、角材・鉄杭・接合部材・補修道具等、総重量は230kgにも達しました。好天にも恵まれ、甲府の街並みや北岳を含む白峰三山を望む絶景を楽しむこともできました。

さて、カンバ平までの登山道はというと、12年前にファンクラブで整備したのですが、思いのほか荒廃が進んでいました。トラバースルートは崩壊し、道がなくなっていました。また、以前設置した梯子は朽ちて使えない状態でした。参加者は、ファンクラブの清水准一さんから作業方法の指導を受け、それぞれ分担された登山道の補修に取り掛かっていきました。2日間の参加者全員の力の結晶で、登山道は見事に甦ることができました。今後、多くの方々がこの登山道を利用してくれることを願っています。



補修用資材を背負子に縛り付けます



ボッカが始まりました



ガレた登山道の修復



案内板です



桧尾峠でパチリ

かんば平への道

針葉樹会 小島和人

芦安ファンクラブ通信を読んでおられる皆さんは夜叉神峠の最後の短い急坂を登って小屋の前に出た途端目に飛び込んでくる白根三山の雄姿に圧倒され、驚き喜び癒された経験をお持ちだと思います。でも「かんば平展望台」からの更に素晴らしいパノラマを楽しまれた方は意外に少ないのではないのでしょうか？

夜叉神峠から高谷山を経て約20分急坂を下り中池に至りますが更に20分進むと「かんば平展望台」に至ります。ここは農鳥・間ノ岳・北岳の白根三山に加えてアサヨ峰、甲斐駒そして鳳凰三山まで、南アルプス北部の主峰が勢ぞろいして、思わず『ほー』と声の出る大スコープの眺望が楽しめます。

この数年高谷山から先の道が荒れていたため「かんば平展望台」もその先の檜や樺の巨木に囲まれたおとぎの国のような「かんば平」も敬遠されて来た様に思います。私達一橋大学山岳部OB会がこの「かんば平」に注目したのは6年前になります。翌年に90周年を控えての企画を議論していた時で、我々の先輩達が昭和12年に北岳バットレス第一尾根・第四尾根積雪期初登攀を成し遂げた頃から芦安にお世話になっており、何か芦安の為にできないかと考えていた時でした。

芦安のペンションで「夜叉神・かんば平登山ルート図」なるパンフレットを見つけ早速歩いてみましたが、素晴らしい唐松と広葉樹の混じった柔らかな雰囲気このルートは大変道が荒れていました。そこでこの山道の再整備をしたら多くの人に楽しんで頂け、芦安の魅力の一つになると考えました。

芦安山岳館の塩沢館長・ファンクラブの清水専務理事に相談をしたところご賛同を頂きご指導を頂けることになりました。

地域貢献を考えていた南アルプス市の富士通アイネットワークス(株)の有志参加も決まり清水さんを初め山仕事になれたファンクラブの皆さんと一緒に2012年秋、まずはトンネル東口⇒檜尾峠の山道修復を実施、その後13年檜尾峠⇒高谷山、14年檜尾峠⇒芦安大石山の神、15年高谷山⇒中池と各年20人ばかりで作業を続け遂に今年、夏山シーズンを前に檜尾峠⇒中池⇒かんば平のルートの整備が出来ました。初めは何もできなかった素人が清水先生のご指導で丸太や鉄杭、番線を運び急な所や山道の崩れやすい所を整備しました。

日ごろハイキングを楽しんでおられる方なら、今では夜叉神登山口から夜叉神峠・高谷山・中池・かんば平・檜尾峠を巡り登山口に帰る周回コースも安心して通れます。是非お友達を誘ってかんば平展望台の眺望をお楽しみください。その後で芦安の温泉とビールたまらんですね。(了)



2日目の作業メンバー



かんば平からの展望

コラム 芦安山岳館からの「逆さ富士」

芦安ファンクラブ 渡邊典美

太古に甲府盆地は山に囲まれた湖でした。「奈良朝のころ行基僧正、南山の岩を砕き開く、盆地に泥濘せし水を排泄して平地となし」と伝えられている。この南山と称しているのが富士川に架る富士橋（鯀沢）を挟んだ東西の山であり、ここの富士川右岸を「禹の瀬」と呼ぶ地名が今も残っている。

江戸中後期からの富士川舟運盛んだったころ旅人は身延道を行き交い、ここ禹の瀬の空に出現する逆さ富士を眺めては、鯀沢河岸への到達まぎわの目当てとしていた、とされています。現在は国道52号線の拡幅工事があったために逆さ富士の山頂片側が崩れてはいるもののなかなかの見ごたえです。又、古典落語「鯀沢」では、身延山詣の旅人が賊に追われて「禹の瀬」から富士川に飛び込み、お題目を唱えて(流木を捉えて)助かった。という噺も有名です。

なんと禹の瀬の逆さ富士にも負けない景勝がここ芦安山岳館の庭先から南側に眺めることが出来ます。それは両側の山と山の重なり具合で禹の瀬と同じ様に空に逆さ富士が出現し、山々が黒ずんでくる夜は格別なのです。きっと満月の夜などは風流この上ないことでしょう、いつの日かこの場所で観月の宴など催したいものだ。さてさて満月は逆さ富士の裾を横に移ろいでいくのかな？・・・

漱石枕流の私は、この山岳館からの逆さ富士ロケーションこそが山と歴史ロマンを追う一級舞台となっていくだろうと思っています。なぜなら、ここは南アルプスユネスコエコパークの緩衝地域ですから開発により山々が削られることがなく、この逆さ富士は永久不変なのであります。

満月の夜は「月下老人」が現れて縁結びのパワースポットとなっていくこと間違いなし、と思ってみたりもした。

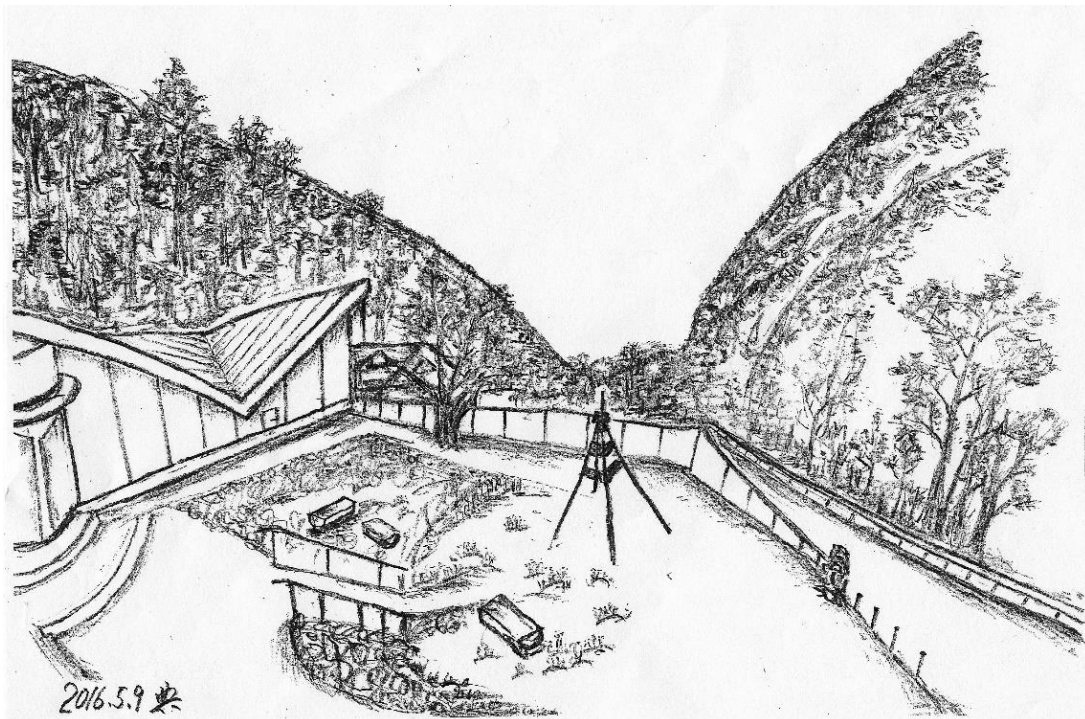
(注) 禹(う)・黄河の水を治めて、帝から位を譲られ天子となり、夏王朝創設した「禹」にちなむ。

(中国古代の伝説)

(注) お題目・日蓮宗では「南無妙法蓮華経」

(注) 漱石枕流(そうせきちんりゅう)・屁理屈を言って、いいのがれをすることの譬え。

(注) 月下老人・唐の韋固(いで)が月夜に出会った老人に将来の妻を予言される故事にちなむ話。



芦安ファンクラブ活動報告

5月8日(日) 芦安新緑やまぶき祭

爽やかな青空の下、新緑やまぶき祭が開催されました。芦安ファンクラブでは、今年もクライミング体験コーナーをさせていただきました。子どもたちは、毎年楽しみにしてくれているようで、今年も行列ができました。また、俳句大会では、堀内訓さんが見事最優秀に選ばれました！

～ 新緑の 息吹きをむねに 背伸びする ～



6月25日(土) 南アルプス開山祭

今年も、開山祭が滞りなく行われました！芦安ファンクラブでは、小天狗の大役を柳原久さん・小澤哲也さんが務められました。他のメンバーも献花の補助や準備、片づけなどスタッフとしてお手伝いさせていただきました。今年も、山に登られるすべてのみなさまが、安全にそして南アルプスの魅力を存分に味わって下山されますよう、願っています！



蔓払いの儀式

大天狗と小天狗



安全祈願の蔓くぐり

芦安山岳館 企画展のご案内

ナチュラリスト 田淵行男の世界 博物学者が見た南アルプス

当館は、開館以来今日まで、その目的を達成するため様々な活動を展開してまいりました。ユネスコエコパーク登録 3 年目の本年は、生涯を自然保護に力を注ぎ、『昆虫記』を残したフランスのファーブルのような視点を持ちながら、身近な生き物の生態研究に心血を注ぎ、山岳写真では自然の厳しさや優しさを鋭い視点と感性で捉え独自の世界を築き、様々な山村民俗の世界に身を置きながら、詩情溢れるエッセイストとして、奥深い自然のメッセージや本質を翻訳し、やさしく私達に伝えてくれた「山の博物学者」田淵行男の世界をご紹介します。

本展では、田淵行男記念館の協力を得て、このような田淵の世界を、安曇野に移り住む前の若き頃に、通り慣れた南アルプスを中心として撮影した「山岳写真」、かつて山々と人々の生活をつなげた「雪形」それに、小さくも美しく逞しい命に心惹かれ、その姿を鋭い洞察力と審美眼で描いた「細密画」の三部に分け展示します。

市民の皆様や南アルプスを訪れる皆様に、山々の素晴らしさや生き物達のミステリアスな生態を知っていただき、ユネスコエコパークの理念である、自然を守り、学び、人と自然の共生に積極的に取り組んでゆくための手助けが出来ればと願っています。

南アルプス芦安山岳館 館長 塩沢久仙

期間：平成 28 年 6 月 18 日（土）～平成 29 年 5 月 30 日（火）

開館：午前 9:00～午後 5:00 年末年始・毎水曜日休館 7 月 16 日～8 月 23 日までは無休

料金：入館料のみ 大人（中学生以上）500 円 小人（小学生）250 円



！新入会員紹介！ 中島紫穂 さん

4 月より入会させていただきました。中島紫穂です。皆さん宜しくお願いします。父に連れられ 5 歳の頃から山登りを始めました。最初は辛くて泣いてばかりでしたが、自然が好きだったのでどんどんハマり、気が付いたら 9 歳頃には槍や穂高に登っていました。南アルプスの北岳や仙丈ヶ岳に初めて登ったのは 13 歳頃。深い谷、でっかい稜線、広大なお花畑に感動した事を覚えています。結婚、出産、怪我病気と人生の山場を迎え暫く休んでいましたが、34 歳頃登山を復活し現在に至ります。今抱えている南アルプスの環境問題や保全活動の力になりたいと思っています。先輩方の技術や知恵を後世に引き継げる様に頑張りたいです。

